

令和8年4月17日

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

埼玉県		
学校名	管理機関名	設置者の別
上尾市立富士見小学校	上尾市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価・保護者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立富士見小学校ウェブサイト 令和7年度特別の教育課程の自己評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/fujimi-elementaryschool/list347-2431.html
学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立富士見小学校ウェブサイト 令和7年度特別の教育課程の学校関係者評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/fujimi-elementaryschool/list347-2431.html
保護者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立富士見小学校ウェブサイト 令和7年度特別の教育課程の保護者評価結果について https://www.city.ageo.lg.jp/site/fujimi-elementaryschool/list347-2431.html

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまでALTの配置や、各校、カリキュラム・マネジメントにより、柔軟な時間割の編成を行う（時間割・日課表・年間行事計画等の工夫、モジュール学習、週29コマ等）など、英語教育を推進してきた。平成30年度から、小学校3・4学年で35時間を、小学校5・6学年で70時間の活動型の英語教育として、外国語活動を実施してきた。

また、令和元年度から、小学校1・2年生においては、学校教育法施行規則第51条に定められる授業時数以外で、年間10時間程度の外国語活動を実施するほか、英語の授業以外に、休み時間等を活用し、児童とALTが自由に会話を楽しむイングリッシュトークの実施を通して、日常的にALTと触れ合う機会を充実させ成果を上げてきた。

学習指導要領の完全実施に伴い、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

ア 小学校1・2学年において、1年生は年間34時間、2年生は年間35時間、生活

科の時間を削減し、英語活動を実施する。

- イ 本市の研究組織である英語活動充実のための検討委員会は、上記アの時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、英語活動を通して、グローバル化社会で活躍する力を育成する。

- ア 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。

(3) 特例の適用開始日

令和2年4月1日

(4) 取組の期間

無制限

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
・一部、計画通り実施できていない
・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

- ・小学校第1・2学年において、1年生は年間34時間、2年生は年間35時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施した。
- ・45分授業ではALTと連携し、「触れよう・慣れよう・慣れ親しまおう」という流れでコミュニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。
- ・校内研修を年2回実施し、英語力や英語指導力の向上に努めた。
- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が進むよう、英語活動充実のための検討委員会が開発した指導案及び教材を活用し、授業研究会を開催した。
- ・CAN-DO リスト改訂版を活用しながら、学習到達目標を児童が達成できるよう支援した。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
・実施していない

<特記事項>

- ・学校だより、ホームページ等を活用して、英語活動の様子を積極的に情報発信した。
- ・学校公開では英語活動や 外国語活動の授業参観を公開した。
- ・学校運営協議会で英語教育の授業参観を行ったり、ワールドルームの環境整備の様子を紹介したりした。

4. 実施の効果及び課題

- (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係本特例は「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、小・中 9年間を見通した 英語教育を推進するものである。

項目①（推進姿勢）と項目③（児童育成への寄与）において、86%が最高評価の「よく思う」と回答している。学校側が明確な意図を持って英語活動を推進しており、それが教育目標の達成に直結していると学校関係者評価委員から指示されていることが伺える。

項目④の ALT（外国語指導助手）の活用についても、7割以上が最高評価を付けている。単なる語学学習に留まらず、異文化理解の促進という面で ALT が重要な役割を果たしていることが評価されていると考える。

項目②（児童の意欲）については、「そう思う（71%）」が「よく思う（29%）」を上回っている。肯定的評価であることに変わりないが、他の項目に比べると「非常に意欲的」という段階よりは「概ね良好」という評価に寄っている。低学年からの英語活動が定着し、当たり前の風景として取り組まれている可能性も示唆される。

- (2) 今後の課題をあえて挙げるとすれば、項目②（意欲）において、5名の委員が「3」と回答しています。「より主体的・自発的に」英語を楽しめるような仕掛けや、家庭との連携、成果発表の場を増やすことで、この層を「4（よく思う）」へ引き上げるよう、学びの強化を図っていく。